

平成 29 年度 事業報告書
平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで

NPO 法人みやっこベース

1 事業の成果

地域で主体的に行動する人材育成を目的として、市内中心部で運営するフリースペース「みやっこハウス」を拠点に様々な活動を行った。「防災ワークショップ」など高校生によるプロジェクトをサポートしたほか、市内イベントにスタッフとして参画するボランティア活動のコーディネートを行い、多数の高校生、大学生が地域での活動を行った。宮古観光文化交流協会が主催する「さんまフェスタ」では宮古短期大学赤十字奉仕団の学生が企画の一つを担った。

高校生の地域活動プログラムとして、「高校生ツアープランナー」、「高校生ラジオ」のプロジェクトを関係機関との協力で開催した。プログラムへの参加という形式での活動とし、のべ 9 人の高校生が参加した。震災から 7 年が経過し、震災復興を原動力にして自からプロジェクトを企画する意欲の高い高校生が減少する中で、地域に関わる活動への参加の機会を作ることができた。

みやっこハウスなどを拠点に、宮古市内外の高校生や OBOG などの大学生が集まる交流会を開催し、活動的な若者が集う活発な場作りに努めた。また、震災以後継続的に宮古市を訪れている県内外の大学生を対象とした学生交流会を開催し、現在の課題などを共有する機会をつくり、今後の活動促進を図った。

進学のため宮古市外へ転出する高校生や既に転出している宮古出身の大学生を対象に、地元への U ターン意向を高めるため、「地元修学旅行」を開催した。今年度は季節に応じて年 4 回開催し、参加者のべ 52 人が地元を誇りに思う機会創出を行った。

昨年度に続き 2 回目となるこどものまち「みやっこタウン」を、陸中宮古青年会議所との共同で開催した。前年の 2 倍を超える 177 人の小学生が参加し、宮古の様々な職業の体験やまちづくりの体験を行った。昨年度参加した子どもが中学生になりボランティアスタッフとして参加するなど、社会への参画意識の向上につながる効果が見られた。

新社会人を対象とした合同研修「ルーキーズカレッジ」を初開催し、2 回でのべ 40 名の参加があった。2 回共に「同世代で同じ悩みや不安があることが分かった」という感想が多く、新社会人が宮古で働く上での孤独感の解消の一助となったと考えられる。

設立から 5 年が経ち、設立当初に活動に参加していた高校生が大学を卒業する年となった。中には、宮古への U ターン就職を決めた学生も現れた。有志で「地元で卒業旅行」を企画するなど、学生同士や地域の大人など地元へのつながりを持ち続ける意識が確実に育まれている。しかし、量的な事業評価方法が無く、これまでの事業の成果を外へ伝えられていない。

小学生から新社会人まで事業領域が広がる一方で、財政および人的な組織体制はむしろ弱体化しており、事業の持続可能性が見込めない状況にあることから、組織基盤強化が喫緊の課題である。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
青少年育成支援事業	高校生が地域に関わる機会創出、高校生の活動支援、活動コーディネート	通年	みやっこハウス	4名	宮古の高校生8人、宮古の高校生主体の2プロジェクト、様々な地域活動	3,282
	市内・市外の高校生・大学生の交流促進	5/3, 8/7, 8/13, 8/28, 12/28, 3/11	みやっこハウス、久慈市内など	4名	宮古及び宮古市外の高校生、大学生のべ146人	215
	キャリア形成支援「地元修学旅行」	8/13, 9/22-23, 12/28, 3/9-10	宮古市内	6名	宮古の高校生及び宮古出身の大学生52人	841
	こどものまち「みやっこタウン」	8/20	宮古市内	10名	宮古の小学生177人	60
	新社会人合同研修「ルーキーズカレッジ」	5/20, 11/10	宮古市内	4名	宮古管内の新社会人41名	90
社会環境整備事業	若者向けフリースペース「みやっこハウス」運営	通年	宮古市内	6名	のべ637人	1,461
	広報啓発「みやっこニュース」編集発行	10月, 3月	宮古市内	3名	サポーター、宮古市民向け	670
その他の事業	組織基盤強化	通年	宮古市内	8名	理事会、事務局	429
	他団体との連絡調整	適宜	宮古市内、仙台市、東京など	4名	宮古市内および東北三県の関係団体	107